

郡山車両所の廃止と業務移管について

2022年8月3日

1. 経緯と方向性

郡山車両所は東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）の郡山総合車両センターの併設車両所として事業運営をしている。現在、JR 東日本は、郡山総合車両センターの建物老朽化に伴う建替計画や耐震化工事を検討している。

郡山車両所についても老朽化した建築物であること、事業運営を継続した工事計画が必要であることから、施工計画を策定する中で代替用地が必要であるとの事由で、当社と JR 東日本間で締結している工場併設および業務の受委託解消を要請された。

検討の結果、郡山車両所を廃止し、郡山車両所で実施してきた空制部品、ユニットブレーキ検修設備を郡山総合鉄道部内に新設し業務を移管する。また、貨車全般検査はその他の車両所に移管することとする。尚、業務移管する郡山総合鉄道部の既存建物も老朽化が進んでいるため、郡山総合鉄道部内の一部建物も併せて撤去、新設箇所への業務集約を行い、移管される検修棟と合築する。（別添1）

2. 郡山車両所の概要

郡山車両所は、JR 東日本郡山総合車両センターの建物、検修設備を借用し、貨車の全般検査を主に施工している。

3. 貨車検査修繕にかかわる検討内容と方針

(1) 貨車全般検査の動向

現在、貨車の保有両数は、事故・廃車等が発生するものの、輸送体系に対応して緩やかに減少している。郡山車両所以外の輪西・川崎・広島・小倉車両所の施工能力と保有する貨車の全般検査両数を比較したところ業務運営の継続が可能であるため、郡山車両所の貨車全般検査両数を他の車両所に分散させて施工することとする。



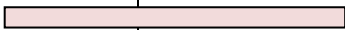

(2) 部品検修の動向

今後コキ 100 系貨車の車両更新ではユニットブレーキを搭載する可能性が高く、業務量の増加が見込まれる。また、空制部品については、輪西車両所へ入場する車両の検修を継続する必要性があること、JR 貨物グループ外へ外部委託を行っている車両所もあり、車両修繕費の改善を図る観点から自社、または自社グループで整備した方が望ましい。よって、空制部品及びユニットブレーキの整備業務を強化する必要がある。

4. 移転地

郡山総合鉄道部

5. 全体想定スケジュール

	2022 年度		2023 年度	
	上期	下期	上期	下期
設備投資 ☆				
建築設計				
設備設計				
工事				
移転（駅）		☆		
移転（検修）			☆	
撤去工事				

6. 今後のスケジュール

(1) 移管日

2023 年 3 月 31 日

(2) 貨車全般検査

郡山車両所の貨車全般検査は 2022 年度内に終了し、移転準備を行う。

(3) ユニットブレーキ、空制部品

郡山総合鉄道部へ業務移管させるため検修機器を調達、設置を進める。また、対象部品を他車両所と循環させるための予備品、循環用コンテナ等の準備を行う。

(4) 郡山総合鉄道部内の駅、営業支店等は、2023 年ダイヤ改正前に、新たな建物へ移転を行う。

以上